



ホワイトペーパー

Teams Rooms on WindowsとTeams Rooms on Android、どちらを選ぶべきか

両方の長所を取り入れて、フレキシブルで将来にわたって長く利用できる一段上の会議を実現しましょう。

ようこそ、進化したコラボレーションへ

今週、ビデオ会議に何回参加しましたか。社内で合計何回のビデオ会議が行われましたか。ほとんどの企業と同様、これをお読みになっているみなさんも、ビジネス目標の達成にはビデオコラボレーションが不可欠であることに気づいておられることでしょう。会議用カメラが設置されていない会議室は、機会損失と受け止められるようになってきています。

ビデオコラボレーションは、一度導入すればそれで終わりというものではありません。ハイブリッドワークの普及、エンドユーザーのニーズ、IT部門の要件に応じて常に変化しつつ、ビジネスの軸として存在し続けるには、柔軟であることが、それぞれの会議の質と同じくらい重要になってきます。

本ホワイトペーパーでは、現時点で最も理想的なTeams Roomsの導入方法と、イノベーションの重要性、認定済みハードウェア、もたらされる柔軟性および利点、そして、それらを自社のビジネスに活かす方法をご紹介します。

ビデオ会議の急速な進化に対応

2020年から2022年の間に、オンライン会議の開催率は48%から77%へと増加しました。Microsoft Teamsの1日あたりの利用者数は、2022年の2億7,000万人から、2023年には3億人へと増加しました。昨年北米で行われた会議の大半がオンライン会議であり、僅差でその次に多かったのがハイブリッド会議です。世界のビデオ会議市場は2032年までに950億ドル規模に達すると見込まれていますが、驚くにはあたりません。

ビデオ会議はビジネスに欠かせないツールとして定着し、その開催件数は増加の一途をたどっています。

テクノロジーが急速に進化し、従業員の要求も増え、競争が激化していく中、ビデオコラボレーションソリューションは、単につながりを生むだけでなく、従業員の満足度を高め、IT部門の管理が行き届くようにするという、新たな役割も担うようになってきています。

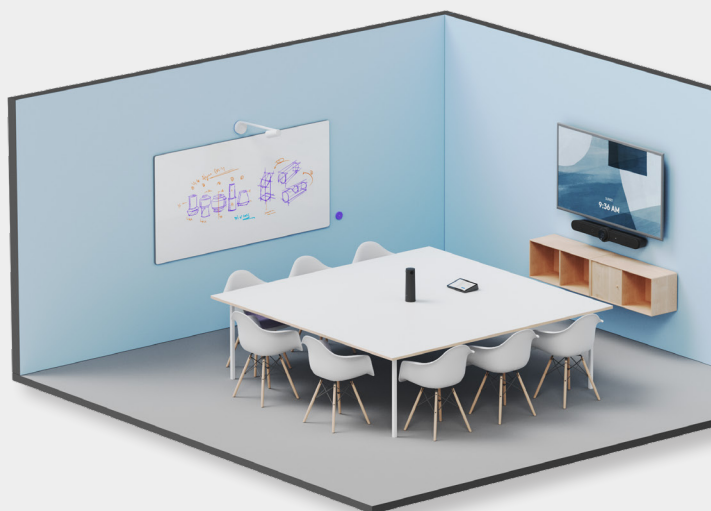
そこで、現在の理想的なTeams Roomsの導入方法をご紹介します。

シームレスな会議を実現

今日、会議は、参加者全員が公平に議論に参加でき、生産的で充実した時間をもたらすものでなくてはなりません。Microsoft Teamsに投資することは、信頼のおけるビデオ会議プラットフォームを活用する最初の1歩です。ただし、これを最大限に活用できなくては意味がありません。

会議の予約、開始、運営がシームレスに行えるだけでなく、従業員が、オフィスからでもリモートからでも効率的に参加できる必要があります。参加者は、高品質なビデオとオーディオ、Teamsの最新機能、最先端のAIを活用し、より質の高い対話を実現できなくてはなりません。

そうすれば参加者は、自分の姿と声をクリアに相手に届けられるだけでなく、どこにいても対話に参加できているという実感が得られます。以上のことはすべて、会議室のデバイスとソフトウェアを適切に組み合わせることで実現できます。





IT部門の業務をよりシンプルかつクリアに

会議をシンプルかつ効率的に実施できるだけでなく、IT部門が、Teams Roomsのコラボレーションテクノロジーを簡単に導入、管理できることも必要です。ビデオ会議に対応したオフィススペースの需要が高まる中、こうしたスペースを管理する部門では、より効率的な管理方法が求められています。

スムーズなテクノロジーの導入、リモート管理、先を見越した問題解決、ソフトウェアおよびセキュリティのタイムリーな更新など、会議室用のデバイスとソフトウェアを適切に組み合わせることで、IT部門の日常的な負担を大幅に軽減することができます。

Teamsへの投資に見合う高性能なハードウェアを導入すれば、上記のような数多くの利点をすばやく得られます。しかし、会社のビデオコラボレーション環境を完璧なものにするには、検討しなければならないことがもう1つあります。

Teams Rooms on WindowsとTeams Rooms on Android、どちらを選ぶべきか

ソフトウェアとハードウェアを検討する際、Microsoft Teams RoomsではTeams Rooms on Windows（Windows版）またはTeams Rooms on Android（Android版）のどちらかを選ぶことになります。

基本的な特徴として、Microsoft Teams Rooms on Windowsでは、ディスプレイ、会議用カメラ、会議コントローラに加えて、専用のPCを使用して、会議を運営します。一方、Microsoft Teams Rooms on Androidでは、会議室のビデオバーに組み込まれたコンピュータを使用するため、専用のPCは不要です。必要なのは、ビデオバー、会議コントローラ、ディスプレイのみです。

それぞれ利点があり、どちらを選ぶべきかは、ビデオ会議に対するアプローチや予算などによります。たとえば、周辺機器の観点から見れば、現時点で柔軟性がより高いのはTeams Rooms on Windowsです。一方、購入のしやすさ、導入のしやすさを考えるユーザーには、Teams Rooms on Androidが適しています。コンピュータとビデオコラボレーションハードウェアが1台のデバイスに集約されているため、ディスプレイとコントローラさえ導入すればビデオ会議室環境を構築することができます。





認定の重要性

Microsoft Teams Rooms on WindowsとTeams Rooms on Androidの、どちらが自社に適しているかを見きわめることに加えて、業務内容に適したハードウェアを選ぶことも必要になります。会議室にMicrosoft認定の機器を使用することは、マイク、カメラ、スピーカーの品質以上に重要です。認定を受けたハードウェアがなければ、エンドユーザーはデバイスの最新機能を利用することはできません。認定済みのソリューションであれば、Microsoftが自社のソフトウェアに搭載した会議室向けの優れた機能をすべて活用でき、その更新も将来にわたって利用できます。Teamsでの使用の認定を受けた適切なハードウェアを使用すれば、会議の効果を最大化できます。

それでは、Teams Rooms on WindowsとTeams Rooms on Android、どちらの認定ハードウェアを選ばよいのでしょうか。柔軟性を確保し、将来にわたって利用できるようにするには、両方に対応している機器を導入するのがよいでしょう。

両方に対応している機器を導入すれば、会議室を自在に構成でき、ハードウェアへの投資を将来にわたって長く活かせます。導入したハードウェアは、Windows PCまたはエンドユーザーのノートPCからTeamsを実行できるほか、Teamsをそのまま実行できるスタンドアロンの会議室デバイスとして使用することもできます。また、1つの導入方法に縛られないため、ニーズが変化しても臨機応変な対応が可能になります。

オーディオとビデオ用の卓越したハードウェア、Teams会議用の最新機能、誰も取り残されない会議体験、Windows版/Android版両方のMicrosoft認定、こうしたものこそ、すべての会議室が標準として目指すべきものです。Microsoft Teamsへの投資が完了したら、次は、それに見合うハードウェアを検討しましょう。

一体型ビデオ会議ソリューションのシリーズであるロジクールRally Barファミリーは、ビデオファーストのビジネス環境に不可欠の品質、シンプルさ、最先端機能を備えているだけでなく、Microsoft Teams Rooms on WindowsとTeams Rooms on Androidの両方で認定されている唯一のデバイスです。

将来を見据えた柔軟性と一段上の会議体験をロジクールで実現

ロジクールRally Barファミリーは、モダンなビジネスコラボレーションに必要な機能をすべて搭載しているため、あらゆる規模の会議室において、エンドユーザー、IT部門、そして会社全体に恩恵をもたらします。

Rally Barを導入して誰も取り残されない会議を実現

ロジクールRally Bar、Rally Bar Mini、Rally Bar Huddleのパワフルな一体型パッケージは、誰も取り残されない上質なTeams Rooms会議を可能にします。クリアなオーディオとビデオを届け、高い精度で集音するアダプティブ ビームフォーミングマイクを搭載しているうえに、再生プラスチックを最大42%使用したサステナブルな設計で、会議を新たな高みへと引き上げます。

Rally Barファミリーは、参加者を最適な見た目で映し出すだけでなく、内蔵AIのビデオインテリジェンスを使って、個々の参加者や話者をアクティブに識別します。同時に、AIノイズ抑制機能がマイクで捉えた音声を最適化します。これらの機能を組み合わせることで、参加者全員の表情と声をクリアに届け、リモートからの参加者にも、より優れた、より自然な会議体験を提供します。

会議室以外の場所にいる参加者も、会議室にいる参加者と話者をはっきりと見ることができるため、公平に会議に参加できます。MicrosoftのAIを活用したIntelliFrameは、ハイブリッド会議を改善し、重要な会議室内の状況が伝わるように設計されています。Rally BarとRally Bar Miniはこの機能を完全にサポートしており、会議室内の参加者をズームインして適切にフレーム内に収めることで、スマートなビデオフィードを生成します。これによりオンラインの参加者は、画面越しの相手の表情や仕草をよりはっきりと見ることができます。誰も取り残さないことを目指すこうした機能は、テーブルの中央に設置するカメラやホワイトボードカメラなどの互換性のある周辺機器にも適用されるため、リモートからの参加者は会議室にいるかのように会議に参加できます。



* 完全なGrid Viewの互換性は、機器などによって異なる場合があります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。



IT部門の負担を軽減する提携

ロジクールとMicrosoft Teamsは、従業員やチームがどこにいても誰も取り残されない会議を実現するべく協力しています。ソフトウェア、サービス、Microsoft Teams Rooms認定ハードウェアで構成される当社のエコシステムは、使いやすく、大規模な導入や管理が容易で、すべての人々がシームレスにつながるハイブリッドワークスペースを実現します。

Microsoft Teams Rooms on WindowsおよびTeams Rooms on Androidの認定を受けたRally Barファミリーを利用することで、IT部門は自社のビジネスニーズにマッチする導入方法を採用できます。Rally Barデバイスを導入するあらゆる会議室で、アプライアンススペース、USBベース、BYOD (Bring Your Own Device) ベースなど、自由に選択可能です。テクノロジーの効率とROIがますます重要になっていく中、採用したソリューションがこのような形で変化に対応できることは、ユーザーの安心につながります。将来的に使用が制限されるテクノロジーや、新たなトレンドやエンドユーザーの要件が登場したときに全面的な見直しを迫られるテクノロジーに、縛られたいと考える人はいません。ロジクールRally Bar、Rally Bar Mini、Rally Bar HuddleはWindows版/Android版両方の認定を受けているため、新しいハードウェアを購入することなく、会議室の構成を自由に変更することができます。

Rally Barは管理も簡単です。IT部門は、会議室の状態の監視、更新の適用、設定の変更をすべて、クラウドベースの単一のプラットフォームから行えます。ロジクール SyncとTeams Pro管理ポータルを組み合わせることで、更新管理とデバイス監視を、使用中の会議室の数に関係なく、より簡単かつパワフルに実施可能です。会議室の使用状況に関するインサイトは、効率とROIの向上に役立ちます。

さらに、**Microsoft認定が、Rally Barデバイスの性能をますます高めます。**ロジクールは、Microsoftと緊密に連携することで、Teamsの更新がスピーディに会議室に適用され、エンドユーザーが最新機能をすばやく利用できるようにしています。こうした更新により、高度な機能を利用でき、互換性が拡大し、他のロジクール製品やプラットフォーム機能との連携を可能にします。

進化したTeams会議をすべての人に

現代のビジネスユーザーにとって機能性とシンプルさはゆずれない条件です。ハイブリッドワーカーにとっての会議の公平性も同じです。同様に、IT部門は、コラボレーションテクノロジーの保守や見直しに悩まされることなく、ビジネスに不可欠なタスクに専念できなくてはなりません。ロジクールRally Barファミリーは、市場トップクラスの信頼できるベンダーが提供する個人/チーム向けワークスペースソリューションのエンドツーエンドエコシステムの一部として、Microsoft Teamsへの投資の価値を最大化し、ユーザーがこれを維持し続けることを可能にします。

誰も取り残されない質の高い会議の提供、Windows版/Android版両方の認定により高い評価を受けるロジクールは、Microsoft Teamsへの投資が業界トップレベルのハードウェアに見合うものとし、どのような将来が訪れても、お客様がビジネスに必要なパフォーマンスと先進性を得られるよう、取り組んでいます。



仕事の新しいロジックに 備える

誰も取り残されないハイブリッドな会議体験を通じて人々が結束できるよう、ロジクールとMicrosoftがいかに連携しているのかについて、詳しくご紹介します。